



中村俊定

中村俊定

中村俊定文庫
文庫 18
156



漆山亭

全

漆鳴

むし紀貫之丞肥陽下皇詔摩抄郡添鳴
志所 志々々々住子ひて

志々々々々々住子ひて 鳴

夫ハ小川乃名所なりきと

此方落りて今も此里は児音也
此信を以て今も此里は児音也
之信を以て今も此里は児音也
之信を以て今も此里は児音也

わーくまて 代絶人の神とあるが今冬
ぬりぬりも誹諧行一祈氏御霊なりと
あつた先由をたれははるけは人足まはる
て白河納幣を御事おん家又は雅よ
まはる事久くかた奉納の句と集落鳴と
すゝるにふは神の光とあつと 侍との如

寶永三丙戌年秋八月 漆嶋軒自

代継社八景



城樓層高

江凡之新之古老より城より屋根 野坂

白川朧月

瀬の音と月と厚所 朧哉 使氏

砂汀紙涼

高々くハ小窓より水とすえん 乙明

其津淵虫

暖く小く 虫次淵乃ほつる 流水



漆鳩唐唐

芥畑千のりとり乃場取れ 輕芦

篁居宿鳥

空のくくと世業のより鴉乃声 三雅

菟下氷柱

榎乃よは鳩竹せり合江無れ

長橋行人

まそりゆ橋乃住まやみけ人 鳥川

奉終

ま乃分るりひりつ居や草折田 使帆

赤り川は後次ありや明こころ 白

有合まゝぬをり梅りぬき鳥 乙明

月乃とるを折り河わらるる夜 流水

朧夜も根よなるるやねの鳥 輕芦

家元の足もと暑くもあつと
山井
花事汗流くくして蒼苔の乱哉
朱拙

あつ川より南は陸ありを
くく川とくく

蚪や折くくく川
三雅
若鮎乃水もぬるぬる川
飯足
啼車とまゐりてまぬ雄子の
野長
あつじ日るん何方取まらん水乃上
桃垂
菜花むつとも白くやうく
去流

神乃田浅仕家て端持をれ哉
悉水
楸乃葉乃請え所して水乃月
芳川
あつ流きて花よまはる小も哉
素林
水庭も極なりをりくく川
洞月
あつくくも秋の調子あり
雲水
吹度乃竹子おさね柳一哉
樂水
あつあつハなご足りくく也五月雨
孤吟

糸乃月令河

只方へ徑て

白川

霜月新降物白———鳴

造言け志河死ふ

柱川———声空———川

社目

壹改

赤坂乃虚空花々々

八月廿八日 奥持院

子心

鳩乃色身よ入りて御岩戸小

川向肥湯使分利 何某乃心

書控あり

短冊 一人一吟

文通

四岸浦口

泥川乃と云と云々也葭乃中 七人 夫草

布子乃若く淋一之形也神送也 全 素

言を比敷く 全 初時雨 浪化

神言目は初はる言は時雨より
先立り一と形一ありまれん

初言代持力 戸 之風 松風

夕月は晴く津守乃威光れ 大津 正秀

むくか人もおろくや 全 ぼさき 膳所 智月

短冊乃教も入る猫 京 恋 酒堂

秋さゆや 全 かけ繪不落く 京 軸持者 貞徳

不知也 全 夜言成の 全 何州の 全 先 怒風

あそ山折吟二句

言を 全 初言 全 先ぬ 全 御池乃 全 煙う 全 風 路通

言ハ 全 初言 全 煙う 全 の 全 何 全 外 全 なる 全 天虫

朝香小舟 ぬきひきり 菊の心 全 吾仲
善の心 全 湖十

肥陽行 御の心

南月 口入 春吹 全 惟然 養

全

海苔竹 石よ月先 涼一水前寺 全 支考

心成寺 全

朝 全 蛭竹声 全 曾九

眠 全 色磁小 全 春竹雨 全 角呂

雉子竹 乃 全 木瓜の心 全 芦文

一里 全 牡丹 全 伯獅

相子 全 女前 全 諷竹

梅 全 會羅

傘 全 三惟

尾声 全 芙蓉

居 全 玄梅

下より 雙乃 見や 小松 殿 尾張 露川

蓋岩洞

永新乃 岩殿 子の 所 日 逐 伊勢 涼 菟

世とめよハ丸と柱 浅月 見 之 那 尾 其 用

土真と 籾 小 之 ち ち 之 ち ち 全 嵐 堂

岡青乃 若も 古 郷 也 今日 乃 月 全 信 徳

橋乃 表 踏 け け け 凡 家 朝 日 和 全 袋 水

肥後よあそひ
旧年とあひひか

態 乃 乃 小 白 川 也 米 乃 乃 全 太 洛

舞 臺 乃 乃 夜 越 乃

度 氏 凡 也 乃 乃

朝 夜 一 大 其 早 乃 乃 乃 乃 乃 乃 備中 露 堂

さぬき乃 國 乃 乃 乃 乃 乃

油 貝 乃 乃 乃 乃 乃 乃

貝 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 全 除 風

今 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

難 波

志 乃 乃 今 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 紫 若

七ツノヤとどけし別家青竹云 白川

訪行脚僧

何くもむすて換て又檜木並 少倉 不繫

菊や時くもくも林竹月 全 仙菓

稻妻竹の陰見まもや海の上 全 寫月

花並ふ人々ぬぬりや道まも 未開 野村

眩並乃慈不疎月おとれ 全 取中

行まもや夜並月竹中 豊後 釣臺

石竹や中下舞 全 鳩乃糞 全 野紅

半時 全 ちま 全 ぬ 全 ま 全 り 全 心 全 一 全 ぬ 全 見

横道 全 や 全 日 全 の 全 ま 全 一 全 ぬ 全 綿 全 竹 全 道

八朔 全 や 全 向 全 あ 全 り 全 せ 全 竹 全 舞 全 舞 全 舞 全 寂 全 芝

蹴人 全 と 全 形 全 浅 全 足 全 世 全 あ 全 り 全 神 全 送 全 旦 全 計 全 染

内極 全 や 全 包 全 一 全 心 全 魂 全 未 全 開 全 旦 全 可 全 曉

羨入 全 り 全 一 全 心 全 云 全 染 全 乃 全 濁 全 已 全 哉 全 半 全 輪

名月 全 や 全 裸 全 て 全 明 全 不 全 隅 全 乃 全 子 全 般 全 里

梅残之秋新、路中一乃九折 全 李黑
 名目や蜻蛉賣家行火の光 全 楚鉄
 子行秋残之路もそむや門涼 全 羊我
 涼の片も足やけや菊のむ 全 起之
 唐柜や極河持上は竹 全 李洞
 蜻蛉や景招はは窓の先 全 楚兒
 走里行人涼かゝる尾花の丸 全 見
 編字も立そむや橋の上 全 桐里

名目や隣も娘乃世帯あり 全 杏呂
 初秋乃調子清くや蟬の声 全 白川
 莫今鶉の声竹のや芥の中 全 未雷
 秋乃まひふ入根も二葉の那 全 まん
 夕立の音も秋乃原 全 万里
 夕立の音も秋乃原 全 相輪
 余所外も柳の音も柳 全 一定
 夕立の音も定も一葉の丸 全 夕側

雪前乃雀とてゆり子之節 全 助然 全

嘆きの盛と清と二月の菊 全 藤六

師の手て手凡海とびや百人待 全 妻 藤六

苗主はよふ人よ六と也然乃中 全 梅丸 豊前

物成寺茶乃本場まで

思ひのり越也や夜行女市 全 一 畏 波

白萩のー一花清遊正月取 全 紫首 全

菓乃雀隣一わくせ也物さる 全 嵐 全

お乃紫竹福ちまや露行たや不 全 紫貞 長崎

よこぶきて時雨て並や梅の枝 全 宇麻 全

手乃内竹也 全 福翁 全

十月月 全 百舟 全

梭招乃紫竹 全 里角 全

日の脚 全 野應 全

園より 全 翠古 全

藪里 全 藤室 全

散るの先は赤じや梅りく来 可忍
高塚乃り花をてぬり梅りむ 蟹
あつち歌さく世見え祢餅り 谷水
秋立やそれ暑れあふ余也 使雀
切落りかたりさるる野菊うれ 長水
蓮池や呼まて強く影法師 不及
朝形や咲くてまゝ夜明く 朴止
赤い柿日暮く竹空にこそ 百我

水色乃りそより落るあつち哉 白川
火碓くく足て赤き言け枝哉 くら
杯乃相子にそくや女郎花 如空
老々入り藪よこくて日そ長き 可翠
鳥も鳴や立所 かの家暗ふ 一頁
弓張る影波あつち子家蟹 江柳
物意流見く川て居るや伯父乃歌 江橋
人の歌とけりくく 昔より言 冬芝

山廉乃那涅槃窟といふ所也

雲よ入る竹のれも泣きたり 宗信

為酔と云ひてし海花里のれ 呂志

龍馬や声もつ後まに東ハのる 素若 少年

弓矢知る人や霜とて一雁 梅楚

去る雨打起う寝て隣にのれ 苔林

病家よわらそ

かきいこの中て夜明乃るを哉 楚物

尤義長ハ夜馬屠り可れ一矢
つり切を袖も残き梅乃るをれ 鉄松

は吟ハせん判り
句々々々

起外乃柳は深くやれきるを 加才

流くく水吹きをくや遠あき 伽我

芍薬乃るをく照る水州乃る 如川

風乃る中一水吹て何乃規模 芳輪

窓一間あけて免の猫乃る懸 士口

楳焼て忘乃まゝ寝つゝ閑さよ 雅柳
 周の夜浅寝わくくゝと鳴子挽 斗口
 動ても砂よゝゝゝぬれさ哉 冬松
 四五間乃庭よ木も有花も有 柳糸
 酢酒利よ人跡ほゝゝ也芽花 二中
 涼よさ折枕よわぬわぬの 後宣
 大工云折造ゝゝゝや下荷と 已友
 翠云ふりや待もぬけてまゝの 鬼眼

秋風や何方りゝまてけわんと 二見
 赤影浮お入てまゝの田植れ 花葉
 わりの葉折吹よゝや後の月 一票
 照る川乃舟お入るり葛の毛 乙来
 種子よは次心業や長乃鶏頭心 任口
 直教もまぬゝわゝや牛け声 芥川
 何鳥のまゝゝゝゝとて郭公 助口
 扇家人又引は日とまゝゝ哉 谷水

女八巻乃

めそききんてを

髪をく朝くらん君紫うれ 全
 髪結びやくて帚一向けむりや 全
 髪形をくく初ぶ柳一哉 全
 一帯六くくへきりくく葛屋屋 全
 拍起あ聖合らん珠乃居うれ 全
 若竹や存乃上くも窓心く 全
 夏瘦乃顔け光也や雲の暮 全
 微口 誅休 吾翠 田子 いろ 如光 己先

春雨や土筆くもくひも 全
 重箱よさくくくく竹居家 全
 ちんや跡えよな御くく守 全
 夕まくくくく葉まき存あり 全
 よもれても座鋪く東家田極 全
 卯折むや何よ志路くくけちんさ 全
 いろくけ神理好くや輝の声 全
 極くく人顔細く梅くくく肌 全
 野推 野全 胃可 船周 東泉 不可 小池 白川

松並乃角もきく浪言坊上 宇土 臺中
 鶴頭や園よ夕日折照のこも 全 芦舟
 初言や海やまを並朝り 全 片石
 村雨乃土もうへ海をねとり 全 一壺
 起されて秘ちひくく 全 松風
 賞やかりし 全 任風
 枯陰は 全 梅水
 うくく 全 可笑

枯の月お人根の紫也後坊月 梅橋 梅林
 鶯乃初言に眉折 代 二義
 稲妻や 柳舟 柳雨
 色く 無庄 琴子
 隙を 全 水破
 柳念よ ミカセ 道梅
 七種乃 上鳴 碧川
 悠く 々 溪玉

成りこころ 幸も竹たまき
いひ残さぬ
句も言ふべきに

宰府

言浅き久又一也り 神竹梅 白川

赤間関

蟹り足りんて 残糸 石和布 水 全

宮嶋

燕も改り 一おまき 身居 衣 全

聖田

あゝ藤や 大月より ちり 只 草 葉 全

若州山

稚子 竹子 ちり 立て ちり 草 葉 全

东山

小倉 中 ちり ちり ちり 草 葉 全

翁塚

解り ちり 柳 ちり 草 葉 全

石山より右にひくく之は河原川也
急しく家日和也 瀬田乃橋 全

伊勢

流石乃外もくもや花はさき 全

溜子

名月や藤吹雨の晴成すや

客りしゆくはきくぬきの音 翁

秋は魚を庭に字跡にせん色 所

未生をれ乃酒はくはは 涼葉

習哉乃鼻帯きくはとこはよ 此筋

曲終を返り下はくは 龍子

痛^ウ人於矢先迎^テて^テ也^テ行^テつて^テ翁
青江^テを^テより^テ雪^テ行^テら^テる^テ川
入口^ニを^テ鎌^テ形^テに^テお^テし^テる^テ筋
三^テり^テの^テ鷹^テ形^テに^テお^テし^テる^テ子
船^上に^テ扶^テき^テお^テり^テて^テ夕^テに^テ見^テる^テ葉
柳^上に^テお^テり^テて^テい^テる^テ川
伏^上に^テ行^テく^テ足^テを^テお^テし^テる^テ翁
食^上の^テこと^テも^テ食^テを^テお^テし^テる^テ筋

月影^ハを^テお^テり^テて^テ鳥^テの^テ子^テを^テ養^テふ^テ子
殿^上に^テお^テり^テて^テお^テし^テる^テ川
花^上を^テ木^テ馬^テ乃^テ車^テ引^テ出^テして^テ翁
ほ^上に^テお^テり^テて^テお^テし^テる^テ南^テ風^テ筋

怒月行脚乃

被^上より
さ^上に^テお^テり^テ翁

野長

秋端く荏ぬくりる日あり

沿く露りる弱櫓戸た謚 野坡

汗乃實ま青くけりゆく秋の事 三雅

岩築きそくく首のりる形 百我

身は川と渡ふも世間かけぬり 江橋

むくくは壁ふりるもたま 一貞

ワ

松並と拂さく海乃音るり 飯足

御師乃土産けりるく 拙垂

家乃内女子住居り 輕舟

精進乃膳もさる日 呂志

芳揚り葉も閉く 白川

川舟くく二里は海道 長

言合乃辞り顔けり合て 坡

い〜く〜き 雅

賣ゆりあふてゆくゆく月の歌 我
尾張乃海下も橋たつる 橋
遠くは娘さへゆく花よらて 貞
高よりき記二月は状 足
名
ま雀写管まて寝るる心持 垂
講中一のく寺り作事 舟
ひりう山張貫一昔道 志
極わりの心今辨れ 一兩 川

腹まてふ己まはせと引つる 長
絶て之を母の骨折 坡
五多て仕自胸部のまのまへ 雅
五日の月乃おはは仕業 我
挾箱扉凡と露乃とてはきて 橋
腰るえつて臥老れは秋さひ 貞
平等は細いまうと竹田越 足
しりあはと鼻に挿漬の鯖 虫

二階口おろく階子まゝりて舟
 小尾くくく仲間乃辞仗志
 志くくくくハ照く夕時分川
 雙尺そくくく妻乃言礎長
 苑嘆し互古きく不旅やて
 何方と落ゆくお留け人 歎筆

野坡

小座を也改く一寄家秋乃冷
 何くくくく今年種竹鼻 舟
 川岸深く岸外りて也そ月出く 使帆
 四五石間月礼れん 挨拶 乙明
 歩積くく世も南なり吹草 輕芦
 夕星くくく中と駕乃ち移く 流水

ウ
布機子あさりねぬもを惜りて 可翠
か加子あさりねぬ月りん 雨 江折
並りて石垣築く屋敷前 忍水
いとくねふ糸もさる人 芥川
一滴り焼酒屋敷口引て 樂水
御寺ハさつとて延き月 新 坡
岡さハ時く初くつ子 繩 川
志くらにさるるまき 雞頭 帆

聲は〜い者公見へ初と意は保て 明
船のまは〜大勢かの人 芦
初は月さるる雲霞吹ら〜水
刀ら〜はくか習り方〜ら 翠
有る連いりてハ志も皆よる 柳
村は足さるる藪乃り間く 忍
髪きい〜も持も懐か引下して 芥
岸ハ言傳十月ハ〜道 樂

樽瓦く舟ぎししと指宅セ坡
萱て屋根葺万石好町川
志る程子乃好荷小秋大根帆
后乃早云より一電馬啼之明
十六夜ハ丈腰越子一柳之
禁酒やうりて僧乃子ひ一水
朔日ハ病者亦人も影好一翠
鹽しんしん一猫好もははく柳

松乃乃事てハきししと葎たて恐
口きししし海百々ありあ若
紫乃り供を和えにちきれ新樂
為溜る朝川一甘ん色坡
わそこ愛見上海好にち吸て川
野山ハすしと挿入君州 執筆

叶集神撰系何某ハ其カ川と讀一川と
家造を一々凡流乃正神樂一々号を
白川と呼車小らん常り一氏神一
漆嶋乃神垣ニ遊ハ景ヲ味ヒ世操ニ
乾夕ニ云レテ一々神カケ母リ人カ
ハ京見落テん事ニ一々集乃取ニ人
侍ニトテ

戊八月

松清使帆書

京町三條上
カフヤ在る板

30 1715
57 5285

